

(公開学習Ⅱ) 第4学年2組 国語科学習指導案

授業者 金澤 久美子

4年2組教室

1 単元名「ことばをひろげる～ことばの達人(修行中)～」

2 授業構成

(1) 教師と教材

本単元は、新学習指導要領第3学年及び第4学年の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)イ(オ)「表現したり理解したりするために必要な語句を増やし、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。」の内容を扱う単元である。

日本語には慣用句や比喩的表現など間接的な言い回しがたくさんある。例えば、「嬉しい」という語句を使わずに「胸をはずませる」「天にも昇る心地」などと表現でき、それらはそれぞれの状況に合わせて使い分けられる。そのときの感情の深さなどによってもことばが変わり、もちろん小学生、中学生、成年など使う側の年齢や立場によっても使用する語句は異なる。そのような様々な表現を年齢に応じて獲得していることで他人とのコミュニケーションを円滑にしたり、読書の際の文章読解を深いものにしたりすることができる。しかし、語句の習得は児童の言語環境に大きく左右されるので、学年が進むにつれてそれぞれの語彙の豊かさには差ができてくる。そして、語彙の豊かさの差は、読む、書くといった国語力だけでなく思考力そのものにも大きな影響を及ぼす。児童の語彙は、家庭生活や学校生活、または読書活動の中で自然に蓄積されるものだが、更に幅広く豊かな語彙を獲得させるために発達段階に応じた活動を設定し、能動的にことばを広げていこうとする児童を育てたいと考えている。

(2) 子どもと教師

中学年は、今までの「身近な生活の中の言語の世界」から「観念的・抽象的な言語を含む世界」へ広がっていく過渡期である。児童は、日常の家族や友達との会話には出てこないことばを読書やテレビ視聴などを通して身につけ始める。例えば、「ぼくは野球が好きだ。」ということ「ぼくは野球に興味がある。」と表現できたり、「ぼくは野球のとりこだ。」と聞いても理解できるようになったりしてくる。しかし実際に使うことばは種類が限られており、ほとんどの事柄の表現を「すごい・おもしろい・たのしい・やさしい」などのごく限られたことばでまかなってしまっている傾向が強い。どのようにすごいのか、どのようにおもしろいのかをもう一度問い質さない限り、おおまかであやふやなイメージのまま相手に伝えることができってしまう状況がある。また、ことば以外の話す表情や身振り、声の抑揚などで相手に伝わる部分が多いため、ことばを厳選しなくてもコミュニケーションがとれたようになってしまっている状況もある。

本学級の児童は、読書好きな児童が多く、ことわざや四字熟語などに関心をもっている児童もいる。日々の国語の学習でも教科書の本文中にある語句を自分なりなことばで説明したり言い換えたりすることができる児童が多く、辞書的な意味ではなくことばのもつイメージの微妙な違いに気づくことができる。また、国語の授業の最初5分間を使って取り組んでいる「ことばトレーニング(ことトレ)」では、修飾語や対義語を集めたり、似たような意味のことばを探したりする活動を楽しみながら続けており、新出漢字を使った語句作りと例文作りにも積極的に取り組んでいる。4年生は、そのようなことばに対する興味や関心が広がる時期であるともいえる。

そこで本単元の活動を通して意識的にことばを集めたり、その違いについて吟味したりすることで「たくさんの種類のことばを使えることは少し大人びてかっこいい」という価値観を身につけさせ、また「似たような意味でも少し違うから、もっとぴったりのことばを選びたい」という意欲をもたせられることができると考える。

また、ことばには万人に共通の意味を伝える面だけではなく、人によって受ける感じが少しずつ異なっているという面もある。同じことばでも相手によっては自分と少し違った感じに受け取られることがあると気づくことによって、豊かな語彙の中から慎重にことばを選ぶ必要があることについても考えさせたい。

(3) 子どもと教材

本単元は、年間を通じて「ことばの達人」をめざすための修行の一環として設定している。そして、どのような力を身につければ「ことばの達人」となるかを、児童には「極意五か条」として提示している。本単元ではその中で「極意その式 同じようなことばでも実はちょっと違うということがわかっている」という力を目標にしている。活動の目的として、よく教師が使う評価スタンプの「たいへんよくできました」「よくできました」「もうすこしががんばりましょう」のようなレベルを意識したことばのグループを考え、オリジナルのスタンプをデザインすることを計画した。そしてそのことばは喜怒哀楽など気持ちを表すことばの中から選ぶことにする。そのようなことばのグループを作るためには、まずたくさんのことばを集めることがスタートとなるので、すでに知っているが使っていないことばの他に、友達からの情報や読んだ本から得た知識などを合わせてことばの数をできる限り増やしたい。児童は日頃、感情を表現することばの種類は限られているように思う。しかし、春から続けている「ことトレ」でも気持ちを表すことばをたくさん集めており、ことばの言い換えなど知識を総動員してことばを集める感覚にすこしずつ慣れてきている。そこで、そのようなことばを類別した上でさらに自分なりにレベル付けをする活動を加える。レベルをつけるためにはそれぞれのことばが表す具体的な場面を想像することが要求されるので、より自分の感覚に近い実感を伴った語句の理解を促すことができるだろう。

本時では、どのようなことばを選んでグループを作ったか、またそれらをどのようにレベル付けしたかを個人で書き表したり、少人数グループや全体で話し合ったりする活動を通して、そのことばに対する自分の考えをはっきりとさせる。そしてその上で、友達の感じ方と比較してさらにことばのもつ普遍性と多面性に気付かせ、ことばへの関心を深めさせたい。

本時で考えた気持ちを表すことばのグループは、年間を通して自分が身に付けたことばをファイリングしている「ことばの達人・虎の巻」の一部として個別のファイルに加え、次の活動へとつなげる。本単元の活動を通して、ことばをもっと大切に選び、使おうという気持ちを育て、4年生修了時にはことばの意味を深く考え、自分の思いと関連させて実感しながら、さらに深い関心をもち続ける児童に育てたいと考えている。

3 単元の目標

- 気持ちを表すことばの類語を集め、それらのニュアンスや使い方の違いについて考えることで、日本語の微妙な表し方に関心を持ち、多様なことばを使って自分の思いを表現したり、他人の感情を深く理解したりする力を身につける。

4 学習計画(全3時間)

- 第一次 「ことばの達人・虎の巻」を作る活動のために喜怒哀楽など気持ちを表すことばをたくさん集める。
- 第二次 集めたことばの中からレベルを比較できることばを選び、「ことばの達人・虎の巻」を作って意見を交流する。
- 第1時 自分が選んだことばをランク付けし、違いを説明する文や例文を書いて「虎の巻」を作る。
- 第2時 自分たちの書いた「虎の巻」を見せあい、いくつかの例で違いについて議論する。(本時)

5 本時の学習について

(1) 本時の目標

- レベルを比較できるいくつかのことばのグループについて、互いに意見を交わしたり、友達の考えを聞いて考えたりできる。

(2) 期待される児童の様相

- A 気持ちを表すことばについてその違いを認識し、説明したり例文を作ったりすることができるように、自分と友達の考えを比較している。
- B 気持ちを表すことばについてその違いを認識し、説明したり例文を作ったりしている。
- C 気持ちを表すことばを集め、類似したことばでグループを作ったり、意味の違いを比較している。

(3) 本時の展開 (○教師の意図 ◇全体への支援)

学習活動	教師の意図と支援
<p>1 本時の学習のめあてを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に「虎の巻」に書いたことばのグループとその説明などを互いに発表し合いその内容について意見を交わし合うことを確認する。 ・前時に選んだことばをいくつか発表し、本時の活動を具体的にイメージする。 <p>例 (気味が悪い・怖い・恐ろしい・おびえる) (がんばる・一生けん命・必死)</p>	<p>1 ○前時まで集めた「気持ちを表すことば」を一つの観点でいくつか選び、グループ作りをさせてある。それらのことばを度合いに合わせてレベル付けし、それぞれの意味を説明させたワークシートを書かせている。</p> <p>◇形容詞や名詞、形容動詞など品詞が混ざっていても同じ方向性を持った感情をあらわすことばはグループとして認める。</p>
<p>2 グループごとに、自分の「虎の巻」に書いたことばや意味を発表し、それぞれが自分の考えと比べて考える。</p> <p>例 「ぼくは怖い気持ちを4段階で説明します。」</p> <p>レベル①気味が悪い：本当に怖い物がなくても何となく怖いような気がする。</p> <p>レベル②怖い：怖い物が何かがわかっている。</p> <p>レベル③恐ろしい：自分ではどうしようもないくらい怖い。</p> <p>レベル④おびえる：動けなくなるくらい怖い。</p>	<p>2 ◇同じ系統の気持ちを表すことばを選んだ児童で班を編制し、友達の考えと自分の考えを比較しやすいようにしておく。</p> <p>○辞書的な意味ではなく、自分の体験や意識をもとにした自分なりのことばで表現するようにさせる。</p> <p>○班の中で違う意見が出たことばに関しては、後でみんなに伝えられるように話しておく。</p>
<p>3 何人かの「虎の巻」をもとに、学級全体でそれぞれの考えを出し合って話し合いをする。</p> <p>例 ・「気味が悪い」のほかに「ぞっとする」もあると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レベル④の動けなくなるくらい怖いというのには、「立ちすくむ」ということばも合うと思います。 ・ぼくは、「おびえる」よりも「恐ろしい」の方がにげ出したくなるくらい怖い感じがします。 	<p>3 ○ことばは似たような意味でも、少しずつ意味がちがっていたり、人によって受けるイメージが微妙に違っていたりすることもあるので、明らかなまちがいでない限り何を言っても良いことを伝えておく。</p> <p>○何となく感じるイメージや先入観、固定観念ではなく、具体的な行動や体験に関連させてことばで表現させたい。</p> <p>◆話し合った後で辞書を引き、正確にことばの意味を確かめさせる。</p>
<p>4 似たような意味のことばでも、少しずつ意味がちがっていたり、人によって受けるイメージが微妙に違っていたりすることもあることを確認し、まとめとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからも「ことばトレーニング」や国語の学習でことばを集めたり、ことばの意味を比べたりして、「ことばの達人」の道を極めていこうという意欲をもつ。 	<p>4 ○自分が思いつかないような表現方法に目を向けることで、ことばの多様な表現の楽しさに気づかせる。</p> <p>◇ほぼ同じ意味の言葉、少しニュアンスが違うことばなどに気づかせたい。</p> <p>◇たくさんのことばについて深く考えることができたことを認め、新たに覚えたことばなどを使ってみたいという意欲につなげたい。</p>